

令和3年度証券ゼミナール大会主旨文：第4テーマ

### 資産運用を促進するための金融教育

現在、日本の家計は少子高齢化などの社会問題に伴い、老後に向けた資産形成への不安や子育てにかかる資金の増大など様々な要因から、自助努力による資産形成が求められている。しかしながら、日本の家計金融資産は預貯金に偏重しており、未だ貯蓄から資産形成への流れが達成されているとは言い難い。

そこで、こうした現状を改善するために、金融教育の観点からどのようなことが出来るのかを議論してほしい。

---

#### 【論点1】：家計が投資するべき意義

預貯金偏重や少子高齢化の問題を踏まえたうえで、なぜ投資をするべきなのかを考えてもらいたい。

#### 【論点2】：現在の日本の金融教育の課題

海外と日本の金融教育に関する比較を行い、現在の日本における課題を明らかにしてほしい。

#### 【論点3】：資産運用を促進させるためにはどういった教育が必要なのか

収支管理の能力なども踏まえ、家計が資産運用を行うようになるためにはどのような知識や考え方が必要になるのかを考えてもらいたい。

#### 【論点4】：金融教育の目的と目標

①学校段階②社会人段階それぞれの課題を明らかにし、金融教育の目的と目標を考えてもらいたい。その際に、金融教育を行う主体と提供の場についても考えてもらいたい。

---

#### 【留意点1】：教員への金融教育

外部講師を招き学生に金融教育を行う以外では、教員には金融知識が求められる。これらの教員の金融知識を高めるためにはどのようなことが出来るのか。

#### 【留意点2】：NISA等の税制優遇制度の普及

資産形成の手段の一つとして挙げられるNISA等の税制優遇制度は、認知度こそあるものの内容理解度や利用率に関しては未だ低い。これらの課題を踏まえて普及させるために、金融教育の観点からどのような方策がとれるのか。

#### 【留意点3】：FinTechの今後の可能性

現在キャッシュレス決済などの普及により、FinTechが身近なものになっている。そこで、FinTechを利用して金融教育をより豊かにするためにはどのようなことが出来るのか。